

元要記

奥書に文治四年（一一八八年）後鳥羽院勅撰とあるが、「元要記」の原形の成立は室町期や江戸初期とも考えられる。後世に多々増補改変され、ここに掲げる大和文華蔵の写本の元は恐らく江戸期であつて、内容もほぼ江戸初期の林羅山『本朝神社考』と同じである。室町期といわれる榊原文庫蔵の『元要記』にはこの個所はない。

「巻第廿一目録」に宗像社、阿蘇宮、戸隠社、諏訪社等とあり、以下は本文中の「戸隠神社」の項。

戸隠神社

神代卷曰日ノ神入_{玉フ}ニ天石窟_一時手力雄神立ニ磐戸之側一日
神以_テニ御手_テ一細メニ開_テニ磐戸_ヲ一窺_ミ之時_ニ手力雄ノ神則奉_{タテマツリ}
ニ承御手_ヲ一引而奉_レ出亦曰伊勢内宮相殿左脇祭ニ此神_一思兼
神之子也為_ニ春日別宮_一或云一言主神_ト同躰分神也戸隠明神
皆神威也

(略)

一云手力雄命取_テニ岩戸_ヲ一抛_ツレ空_ニ落_ニ。在信州戸隠山_一故
名_ニ戸隠神_ト一

註 日本古典籍総合目録データベースに大和文華館

蔵の「元要記」(写本)がある。774コマ目から

776コマ目。DOI 10.20730/100093445